

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	事業所独自の理念があり、それに基づき、どうしたら一人ひとりがその人らしい生活を送れるかを日常的に話し合いながらサービスの提供を行い、その人らしさ実現に向かい意見交換を重ねている。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地域のお祭りや催し物を観に行き、地元の人々と交流することに努めていたが、現在コロナウイルス感染防止第一で地域の赴くことはない。近隣を散歩し知人と出会い挨拶を交わす程度。月に1度公民館便りでホームの様子を伝え認知症の理解に努めている。	コロナがあって地域の人との交流が難しい。 感染の知識を深め、持ち込まないと言うことを意識して、どうしたら良いか職員間で考えていく。春を目指して準備する時期にしてよいのではないかと。。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者やサービスの実際、評価への取組状況について報告や話し合いを行っている。会議出席困難な家族様からのご意見が頂けるよう議事録を何時でも閲覧できるようにしており、お便りで更新を伝えている。また、認知症の人の支援方法を伝えて理解に繋げるよう努めている。	2か月に一度、内容の報告時に写真が添付されており様子から表情が良くわかる。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	市・地域包括担当者とは運営推進会議でホームの現状を伝え利用者の困難事例については相談・意見交換をしている。運営上の疑問点が生じた場合は市担当課に電話・相談して必要な助言を得ている。	疑問点に関しては助言を頂き、実状を発信して、これまで以上に連携を努めていく。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日中、玄関の鍵をかけていない。利用者一人ひとりの外出のくせや傾向をつかんで対応しており、外に出たい、帰りたい様子ある時は傾聴し共に行動し対応している。また、身体状態が一時的に悪化し転倒リスクが高い方に関してはセンサー使用することもあるが行動、制限は設けていない。伴うリスクに関しては家族様に伝え理解に導いており、ケアプランに挙げて家族の同意を得ている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今後も、委員会や研修を通して、また参加していない職員には伝達研修を行い、身体拘束に対する正しい理解を深めケアに取り組んで下さい。

6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	施設内、外部研修参加後に伝達研修を実施し周知に努めている。また管理者と職員は不適切ケアについて話し合う機会を設けてケアの見直しを行い、職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないかを把握するよう努めている。身体的な暴力はなくても、言葉が暴力となり利用者さんの生活を萎縮させないように個別の話し合いミーティングにおいても話合っている。自分自身の言動を振り返す機会は今後も必要。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	完璧という事がない、これからも気を付けて業務にあたって欲しい。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	権利擁護に関して新規採用時は必ず実施。その後も施設内外の虐待防止研修、月1回の虐待防止委員会や身体拘束委員会、ホームミーティング等でも学んでいます。現在、成年後見制度を活用している利用者さんが1名あり。補助人と相談・助言を頂きながら支援している。			
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居前に重要説明事項を基に説明しご家族に伝わりやすい説明を心掛け、不安、疑問を尋ね理解して頂けるように努めている。契約時にも再度確認しながら説明を行っている。また退去時も事由を踏まえた上で十分な期間を持つように配慮している。			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	いつでも利用者が意見・不満、苦情を管理者や職員に言うことができるような雰囲気づくりに努めている。運営推進会議で家族代表の方も含め意見を頂いている。コロナ過になってからは家族との面会に制限あり電話が多くなっているが、その都度、利用者さんの暮らしぶりを伝え、家族さんの要望等聞かせて頂いている。また、1階EV前に「意見箱」を設置、外部に表せる機会として第三者委員や、公的窓口を説明、紹介している		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	面会時に意見要望を聞く機会を設けているので、今は意見箱に意見は入っていない。言いづらい事が言えるように特養の方に提出という形で無記名アンケート実施を行い、意見を参考に改善点を明確にすることでサービスのより向上を図る取組実施を検討。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者受け入れ、入居継続の可否、その他、重要な事項の決定については職員の意見を聞く機会を設けている。毎月の職員会議時に職員主体で意見交換し、ホーム行事も職員が			

				主体となって企画・実行している。年1回の個人面談、ユニットリーダーを担う職員との面談の機会があり、職員の要望・提案をホームの運営・サービスの質の向上に繋げている。			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営者は各職員が向上心を持って働き続ける為に、労働基準法に則った勤務体制の実施および職場環境の充実に努め、また年2回の健康診断の実施、労働安全法に基づき職員のストレスチェックを行い心身の健康を保つ為の対応がされている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今年度、辞めた職員はいない。 職場環境が良好。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ過になってからはリモート研修が多いが法人内外の研修機会を与え、各職員が参加している。また、日常的に助言・指導も行っている。職員が資格取得に向けての講習に参加できるようシフト調整している。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	研修を通して多くの取組をしている。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	県グループホーム協会の会員、石川県地域密着ケア会議協議会にも加入しており、協会主催の研修に参加し、交流、連携を図っている。また、市内のグループホーム事業者連絡会に参加、コロナ過になってからはリモート会議や書面で情報交換している。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の残存能力を生かした活動で協働を心掛け、利用者からの要望、指導などが日頃からあり、職員が一方的な立場に立っていることはない。また利用者同士の助け合う関係も築いている。			
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ過で訪問は制限されているが、LINE電話で交流している。また、昔話を聞いたりその当時の歌を歌ったり、家族の思いで話を話す機会を作っている。	感染リスクを減らした訪問環境を行い面会は曜日に関係なく、週1回14時から16時の間で可能となっている。また、催事においては携帯のビデオ通話を利用し参加している。		

II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	裁縫、塗り絵、歌、計算、パズル、ゲーム、スクワット、野菜の下ごしらえ等々希望を聞き、自己決定のもと、得意なこと、好きなことをしながら楽しく過ごして頂いている。思いや希望を聞くと共にやりがい、居場所を提供している。			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	職員会議で定期的に個々の状態に合わせた課題やケアの在り方について評価と再検討を行い、本人・家族と職員等が話し合った上で利用者さんの立場に立った介護計画となるよう努めている。	状態の変化に応じてその都度プラン変更。通常3か月見直しをしている。利用者と家族の思いを聞いて作成しているが、自分の事が言えない利用者もいる。予測しながらのプランとなることあるのではないか。	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	今後も利用者と直接話すだけではなく普段の言動から意向や課題を把握し、職員や家族の意向などを反映させながら介護計画作成をしていく。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	利用者個別の SOAP 方式とし、此処の目標に沿ったケアの実践を行い気づきに繋げてプランに反映、介護計画の見直しに活かしている。またその日の特変事項やヒヤリハット記録申し送り等で職員が情報を共有し対応している。		<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	SOAP 方式 (S)主観的情報: 利用者の発した言葉 (O)客観的情報: 利用者の行動観察 (A)評価: (S)と(O)から解釈・分析・判断 (P)計画: (O)(A)を踏まえた今後の方針 上記4つの項目を記録に記載していく方法
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	直接面会が困難なご家族においてはリモート面会や LINE 電話で対応している。また、ご家族に代わり病院受診の付添いをしている。	利用者や家族の要望に応じ、歯科・整形外科の受診付添、買い物等をしている。家族と電話やメールを使ったやりとり、ビデオ電話で近況確認している。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	コロナウイルス感染防止を第一に考えているため地域行事への参加はできないが、施設周辺を散歩することで知人と出会い挨拶を交わしている。	地域行事への参加はないが、散歩に行くと畑で知人や娘さんと会い、花を頂くこともある。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	原則的に入居前のかかりつけ医に受診又は往診してもらっているが、都合により困難な場合は協力体制にある医師に変更し、往診等により適切な医療を受けられるように支援している。			
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	入院時は本人の状況等の情報提供を行うと共に円滑な治療となるよう必要事項は随時連絡を取り合っており、早期退院に繋がるよう努めている。		<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	入院時に介護サマリーにて情報提供入院先のソーシャルワーカーと密に連携を図り状態確認を行っている。また退院後対応のアドバイスを頂く等、良好な関係に努めている。

23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	入居時に重度化した場合や終末期の対応方法(他施設への転居、入院など)を説明し、了解を得ている。家族の意向でホームを希望され主治医の協力が望める場合はお世話している。		<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	項目 22 と同様
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	ホーム内に看護職の配置はないが、訪問看護リハと契約を結び定期的な看護師の訪問あり夜間対応も可能となっている。また隣接特養の看護師に症状に対する対応等を相談できる環境も整っており相談、アドバイスを頂き、かかりつけ医に繋げている。また隣接特養の研修に参加し、緊急時の対応ができるよう努めている。個々に起こりうるリスクを把握し職員間で共有するよう努めている。			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	隣接特養と合同の避難訓練及び設備点検を実施して、災害時における避難方法の把握や場所の確保はされており、火災訓練を年2回、地震・水害訓練を年1回実施している。地域住民、町内の自衛消防団、運営推進委員を交えて実施していたが、現在は参加見合わせている。BCP(事業継続計画)を作成し職員が周知している。防災訓練後、停電になっても速やかに電気供給ができるように自家発電機を実際に使用する練習も行っている。	コロナ前は運営推進委員や町内の方、家族等の参加協力を頂き避難訓練を実施していたが現在は職員のみで定期的な訓練をしているが、万一の時に実践できるか不安も残る。	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	これで良いということはないので、常に身につけておく。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	身体ケアについては居室・トイレ等で行いプライバシーが守られるように配慮している。また本人が思っている「現実」を否定せずに受容した上で不安を取り除けるように努めている。月1回、認知症ケア会議を開催し対応を再認識している。		<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	一人ひとりの思いを受止めての対応をしているが、これで十分ということはないと思います。今後も人生の先輩として尊重していく。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	個々の得意なことや好きなことを把握し持てる力を生かし、希望を聞きながらその方のペースで楽しく過ごせるように支援している。業務中心とならないよう意識している。			

28	食事を楽しむこと のできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	個々の能力を活かし、食材切り、盛付、配膳等の準備や食後の片付けを職員と一緒にしている。催事日や誕生日では利用者の好きな物を選びテイクアウトしている。		<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	一人ひとりの力を生かして、職員がうまくサポートしている。郷土料理なども提供している。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	隣接特養の栄養士により、個々の栄養バランスを考慮している。また利用者一人ひとりの食事と水分摂取量、排泄状況を観察記録している。水分確保できていない方においては数回に分けるゼリーを提供する等、工夫し居室にお茶を用意する等、個々の希望に合わせて支援している。			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	声かけと口腔ケアの大切さの説明をしながら、自立・声かけ・一部介助と個々に適した支援を行い清潔保持に努めている。		<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	口腔ケアの実施は朝・昼・夕食後にその方に応じた声かけを行い実施している。不都合ある場合は協力歯科医院受診対応も行っている。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	個々の排泄チェック表を活用し平素の排泄パターンの把握し食事・水分量・下痢等便秘の予防に取り組んでいる。排泄時間帯によりパットや紙パンツ使用の種類を決めている。また紙パンツに汚染の無い方は布パンツに移行している。		<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	排尿・排便の状態把握し紙パンツを布パンツに移行。排泄を把握し声かけや誘導によりトイレでの排泄を支援している。今後も、水分摂取量の把握や軽い運動を行い機能向上と自立の支援に努める。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	個々の気持ちに添った穏やかな入浴をして頂くために午前中、午後等その方に適した入浴をしている。			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	利用者一人ひとりの疲労程度に留意し本人が落ち着ける居室・フロアでの休息を選んで頂いている。個々の睡眠パターンの把握に努め、不眠傾向のある方へは話をよく聴き、日中の活動を通して生活リズムが整うような支援に努めている。室温調整に配慮している。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	薬は情報をしっかり把握して医師の指示通りに服薬できるよう確認体制をとっている。服薬開始からの症状の変化に注意し、わからないことは医師・薬剤師に聞いている。		<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	内服拒否で主治医処方通りの与薬が出来ない利用者がいた。主治医に相談し朝内服→昼内服に変更し対応している。

35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	水分補給時の飲物、裁縫、季節の作品作り、塗り絵、書写、ビデオ観賞、散歩等、個々の好まれる物を提供している。	自ら、楽しみ事を見つけている人もいれば声かけにて行う人もいます。今後も何を望まれているか確認して家族と相談、協力を頂きながら支えていく。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ感染予防を第一に考え外出は出来るだけ控えている。季節を感じるドライブは少人数で出かけている。近隣の散歩で地域の方からお花を頂きフロアに飾っている。また散歩コースにお墓のある方はお参りもされている。	感染を防がなければいけない中、どうしたら外への活動ができるか、ボランティアを受け入れる事ができるかを考えたら良い。現在少しずつだが買い物や墓参りにでていますし、食べたい物を食べれるように支援しています。町内の子供みこしの交流も行いました。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ④ほとんどできていない	金銭管理については入居者の能力、家族の希望に応じて小遣い程度の金銭を持つことを支援している。また所持していない方に関しても買い物に行き支払う機会があれば対応している。現在は支援できていない。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者さんからの希望に応じ、電話をかける介助や繋ぐ介助を行い、会話中は席を外すように配慮している。手紙などは手渡しし要望によっては代読している。年賀状や親せき・知人におくる為、郵便物投函の支援や携帯電話の取り扱い困難時の対応もしている。			
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. ①十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	共用の場所はお互いが居心地良く過ごせるように適時席替えなどして問題や混乱を回避している。月ごとに季節感のある作品を制作し掲示している。		A. ①十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	「自分の家や」という利用者がある。施設の中を利用者さんに案内してもらった。居心地が良いのがわかった。
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者本人が日常を決定できるような声かけをする支援を行っている。「誰かの役に立っている」「ここにずっと居たい」と思ってもらえるような支援をしている。			

41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居用データベース、アセスメント、日々の様子観察や本人・家族から生活歴をしっかりと聞いて行動の理由を考えて支援に繋げている。			
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	健康観察を朝と午後に行い異常時は主治医に繋げている。また定期的な往診や週1の訪問看護で健康面のサポートしている。身体の状態に合わせて杖・シルバーカー・歩行器を使い自立に向けた介護をしている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	バイタル測定など健康面や医療面での日々の状況を把握し訪問診療・訪問看護により健康観察の体制を整えている。下肢筋力低下による転倒がある利用者は動向に注視している。
43		本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の体調や要望に応じて居室で読書や編物、TVを見たり、フロアで体操やレク活動をしたり自分のペースで過ごしている。			
44	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居時に家族と話し合い安全面に配慮し持ってきて頂いている。家族の写真や整理タンス、テーブル・椅子、テレビ、寝具、ソファ、時計等、なじみのものが沢山ある。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入所の時、なじみの物を持ってきても良いと伝えているが、全員ではない。思い入れのある物を自室に置いている。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ感染予防を第一に考えているため、外食や遠方の墓参りなど出かけることができない。地域の祭り、芸能文化祭は参加を見合わせている。自宅に服を取りに行きたいとの希望ある方は家族にその旨伝え、了承のもと職員付添いしている。	コロナ過では希望する外出は難しかったが、ホーム内の催事には拒否なく参加がある。また、家族の協力を得て思いも叶えられている。コロナ前に戻すというより、新しく作っていくと言う考え方をしていると良い。		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の残存能力を維持向上できる作業を探し提供している。廃用症候群の左手を意識した運動を取入れた事で左手を使い食器を持つ事ができたとの喜びに繋げている。また居室に過ごす事が多かった方がフロアで調理手伝いするのが日課となり笑顔が増えている。			
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	得意なこと、好きなことをやり遂げた達成感を感じて頂けるよう支援している。掃除や家事手伝いを進んでされている時、会話や歌をうたい賑やかに過ごされている時は穏やかで明るい表情がある。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者同士でコミュニケーションがとれるように職員が会話の仲介を行うなどの工夫をしている。活動においてもコロナ過の前に戻るのではなく新しく作り上げていく。

48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々に関わったり、交流することができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない <input checked="" type="radio"/> D. ほとんどできていない	コロナ過の為、感染リスクを減らすために交流は職員・家族に限っているが、ペランダ越しに友人との会話など、その時で出来ることをしている。	少しずつ外出制限も緩和されてきているので利用者の思い実現の手段を考えていく。		
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくるができている	A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ感染予防の為に地域の方々との交流はできないが、職員と一緒に生活していることに安心感があり生活リズムが整った穏やかな日々を送ることができている。「ここにおれば安心や。ここにおればこそや」と話されている	比較をコロナ過前にしないで、コロナ過の時より、ずっと良くなっている点に着目してください。一人一人が安心して暮らして頂けるよう工夫していく。	A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者さんが穏やかに過ごしているのが分かる。どうしたら、家族・地域の人々との交流を図ることができるのか、より楽しい暮らし継続が提供できるかを職員間で考えていきたいと思います。